

ごさんじ
御山寺遺跡

所在地 岩倉市鈴井町
(北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒)

調査理由 緊急地方道路整備事業3・3・8号一宮春日井線

調査期間 平成21年5月～平成21年6月

調査面積 350㎡

担当者 樋上 昇・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「一宮・小牧」)

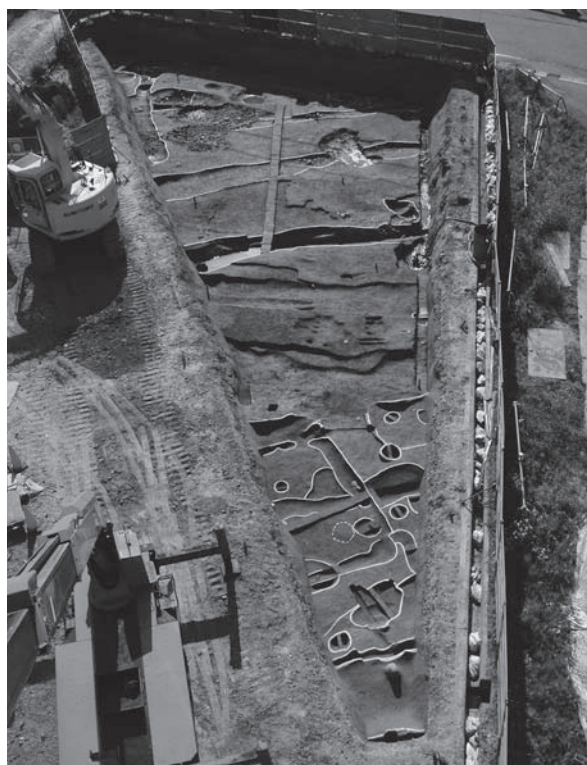
調査の経過 御山寺遺跡の発掘調査は、県道一宮春日井線建設に伴う事前調査として、愛知県建設部都市整備課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。

立地と環境 本遺跡は岩倉市鈴井町に所在する遺跡で、平成16年度より愛知県埋蔵文化財センターにより発掘調査を実施してきた。本年度の調査区は御山寺遺跡の西端に位置する地点で、北に隣接する平成19年度に調査した07D区と07E区において縄文時代晩期前半の集落、古墳時代前期の竪穴住居群からなる集落や溝、古代から中世にかけての自然河道などが確認されている。

調査の概要 今回の調査においても、縄文時代晩期前半の竪穴状遺構4基・土坑多数と古墳時代前期の竪穴住居5棟・溝5条・土坑多数、中世の区画溝2条が確認された。この中で、平成19年度の調査において注目された旧河道に沿って西の微高地上を北から南にはしる溝が、さらに西側の地点に新たに4条確認できた(写真参照)。また縄文時代晩期前半の遺構では、調査区西側には大型土坑が散在する程度であったが、調査区東側には竪穴状遺構や礫が多数廃棄される土坑などが複雑に重複して検出できた。

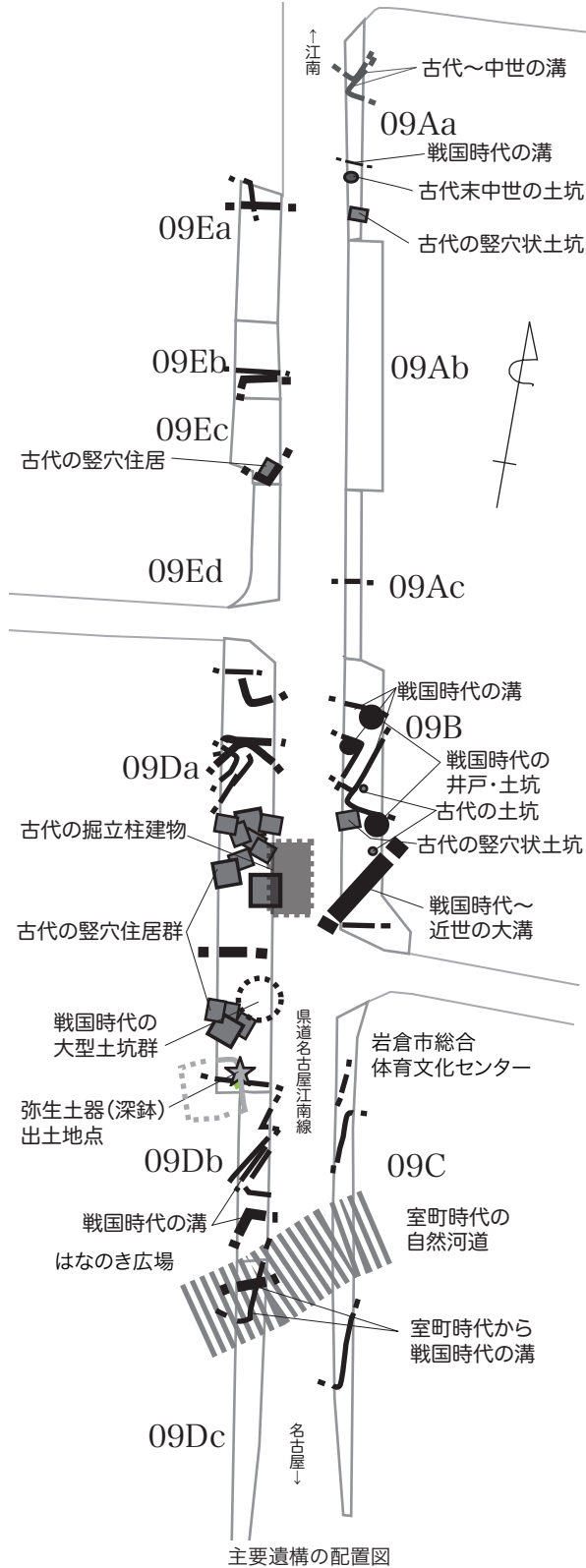
今回みつかった古墳時代前期と縄文時代晩期の遺構群はさらに南に展開する事が明らかになり、盛んな営みとその変遷が存在した事を示すものと考えられるようになった。

(蔭山誠一)



古墳時代前期の遺構(東から)

ることが明らかになった。弥生時代には当該遺跡の南約1.1kmの大地遺跡、弥生～戦国時代には北約0.7kmの町屋遺跡、東約0.7kmの新溝遺跡などが所在する。戦国時代には北東約0.6kmの御山寺遺跡、南東約1.8kmの岩倉城址などが所在する。当該遺跡の分析を進め、各時代の周辺各遺跡との比較検討が今後の課題である。(榊原清人)



09Da区弥生土器の出土状況



09Da区古代の柱列と竪穴住居跡(北西から)



09Db区上面遺構全景(北から)